

I 管理機関の取組

1. 運営組織づくり

カリキュラム開発拠点校	岡山操山中学校・高等学校
事業連携校	岡山一宮高等学校
	岡山城東高等学校
	岡山工業高等学校
	倉敷天城中学校・高等学校
	倉敷中央高等学校
	玉島高等学校
	津山中学校・高等学校
	和気閑谷高等学校
	岡山大安寺中等教育学校
	Sacred Heart College高校（オーストラリア）
事業協働機関	岡山大学
	岡山県立大学
	岡山県経済団体連絡協議会
	ベネッセコーポレーション
	J E T R O 岡山
	J I C A 中国
	AMD A
	岡山県
	岡山市

「社会への多様性への理解の促進」「課題研究の充実」「高度な学びの推進」を実践するため、カリキュラム開発拠点校、事業連携校、事業協働機関と連携し、ALネットワークを構築した。拠点校と連携校間との連携については、管理機関担当者と各校の担当者による「ALネットワーク連絡会議」を設置し、具体的な連携事業を進めていった。6月27日に、第1回会議をオンラインにて実施し、今年度の事業計画について確認、協議を行った。10校の担当者が頻りに会議を行うことは難しいため、通常はALネットワークのGoogle Classroomで情報を適宜共有しながら、連携を進めた。

各事業協働機関には、年度当初に管理機関の担当者で訪問を行い、事業の年間の見通しや、連携を依頼する内容等について説明し、協力を求めた。

2. 運営指導委員会

氏名	属性／所属	主な役割
ウイリアムズ ジェイソン	大学関係者／ ノートルダム清心女子大学准教授	グローバル人材育成に関する知見 国際交流や高度な英語力の育成に関する指導助言
神崎 浩二	産業界関係者／岡山県経済団体連絡協議会事務局長	産業界が高等学校に求める教育の在り方に関する知見、学校と企業との連携に関する指導助言
林 俊克	大学関係者／就実大学教授	データサイエンスに関する知見 探究学習の手法に関する指導助言
福本 昌之	大学関係者／広島市立大学教授	教育評価に関する知見 探究学習の手法に関する指導助言
松原 憲治	教育関係者／国立教育政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官	ESDに関する知見 OECDの視点からの生徒の資質・能力の育成、教科横断的な学習、STEAM教育に関する指導助言

運営指導委員として5名を委嘱し、2回の委員会を実施した。

第1回 期日 令和4年9月1日(木) 14:00～16:00

第1回検証委員会と共催

参加者 運営指導委員、検証委員
校長、副校長、教頭、各担当者
管理機関

内容 今年度の事業計画の説明
各委員からの指導助言
拠点校から各委員への質問

第2回 期日 令和5年2月8日(水) 14:00～17:00

参加者 運営指導委員
校長、副校長、教頭、各担当者
管理機関

内容 今年度の取組の説明、成果の検証、次年度への展望
SOZAN STEAMの授業風景の参観
各委員からの指導助言

3. 検証委員会

氏名	属性/所属	主な役割
小川 正人	大学関係者/ 環太平洋大学副学長 教授	データ等に基づいたALネットワークの取組の成果等の分析 グローバル人材育成に関する知見

検証委員として1名を委嘱し、年2回の委員会を実施した。

第1回 期日 令和4年9月1日(木) 14:00～16:00

第1回運営指導委員会と共催

参加者 運営指導委員、検証委員
校長、副校長、教頭、各担当者
管理機関

内容 今年度の事業計画の説明
各委員からの指導助言
拠点校から各委員への質問

第2回 期日 令和4年3月末を予定

内容 今年度の事業成果の検証、意見交換

4. ALネットワークの取組

(1) 留学体験報告会(留学促進フェアOKAYAMA2022)

県民生活部国際課と県教委の共催イベント「留学促進フェアOKAYAMA2022」において、令和3年から令和4年にかけて1年間、拠点校からチェコへ留学した生徒が留学体験を発表した。留学に興味がある、留学を考えている高校生、中学生、その保護者に向け、自らの留学体験やメッセージを送った。

日時 令和4年10月30日(土) 13:30～17:00

場所 岡山コンベンションセンター



(2) 全国高校生フォーラムへの参加、オンラインリハーサルの実施

文部科学省、筑波大学（幹事管理機関）が実施する、全国高校生フォーラムに拠点校、連携校の5校が参加した。

12月18日のフォーラム当日の英語での生徒交流会に向け、ZOOMミーティングを使い、参加校によるオンラインリハーサルを実施した。本番同様に、1分で各校のプレゼンテーションの要約発表と、生徒相互の質疑応答を英語で行った。

全国高校生フォーラム参加校

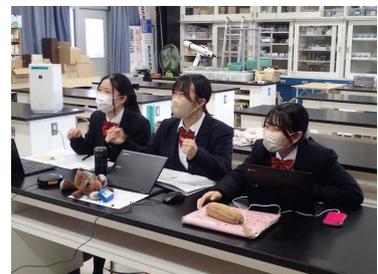
岡山操山高校、岡山城東高校、倉敷天城高校、玉島高校、岡山大安寺中等教育学校



岡山操山



岡山城東



倉敷天城



玉島



岡山大安寺

(3) Well-beingセミナー（Well-beingフォーラム事前セミナー）

Well-beingフォーラムの事前セミナーとして、「すべての人が身体的、精神的、社会的に幸福であること＝Well-being」な社会の実現に向けて、高校生が、自分たちがどうあるべきか、何ができるかを考え、行動につなげていくために、国際的に活躍して

いる有識者の講演を聞き、” Well-being” について理解を深めることをねらいとした Well-being セミナーを実施した。拠点校、連携校に加え、広く県立高等学校の生徒に参加を呼び掛け、県立高校の生徒、保護者、教職員約 50 名が参加した。

午前の部は、岡山県 JICA デスクの国際協力員、北脇藍紗氏による、講演とワークショップを実施し、ジャマイカに派遣された自身の経験をもとに、「食」を通じた異文化理解、国際理解、そして” Well-being” について、生徒とのやりとりも交えながら、わかりやすく講演いただいた。ワークショップ「買い物ゲーム」では、それぞれ異なる所得の範囲で、必要な摂取カロリーを満たそうとしたときの栄養バランスの偏りを実感するとともに、それを解消していくために必要とされる支援の在り方について、楽しみながら、考えることができた。

午後の部は、AMDA 理事の佐藤拓史氏、難波妙氏による講演と座談会を実施した。昨年 3 月からのウクライナの避難民への人道支援、医療支援をはじめ、これまで国内外の様々な地域で多くの医療活動、人道支援に携わってこられた貴重な経験をもとに、「” Well-being” とは？」というテーマに迫った。続く座談会では、各グループを講師二人が順番に回ってくださり、生徒に直接語りかけたり、問いを投げかけたりと、有意義な対話の時間となった。

○「Well-being セミナー」

目的 「すべての人が身体的、精神的、社会的に幸福であること＝” Well-being” な社会の実現に向けて、高校生が、自分たちがどうあるべきか、何ができるかを考え、行動につなげていくために、国際的に活躍している有識者の講演を聞き、” Well-being” について理解を深める。

日時 令和 5 年 2 月 11 日（土） 10:00～16:00

会場 ピュアリティまきび

参加者 ① 拠点校、連携校の、Well-being フォーラム参加生徒 30 名
② ①以外で参加を希望した生徒 20 名
③ 保護者、教職員 5 名

日程 10:00～10:05 開会、講師紹介

10:05～12:00 講演・ワークショップ 1

「『食』を通して見た世界と『Well-being』」

独立行政法人国際協力機構 岡山県 JICA デスク

国際協力推進員 北脇 藍紗 氏

13:30～13:35 開会、講師紹介

13:35～14:55 講演 2

「見放さない！その命

～ウクライナ人道支援と世界の『Well-being』～」

特別非営利活動法人 AMDA 理事 佐藤 拓史 氏

特別非営利活動法人 AMDA 理事 難波 妙 氏

15:05～15:55 質問、座談会

15:55～16:00 諸連絡、閉会

[生徒の感想から抜粋]

・思っているよりも世界は広くて、知らないことがいっぱいあるのだと思い

ました。今日のワークショップでカロリー計算するなど身近なところから少し工夫するだけでみえてくるものがあるのだと感じました。

- ・「どんなに過酷な事があっても、楽しいと思えることが根底にある」という佐藤先生の言葉を聞いて、今進路で悩んでいるけど、本当に心から楽しいと思える仕事を選ぶことが大切なんだと感じた。私も、人生を終える瞬間に「120点の人生だった」と思えるような人生を歩みたいと思った。



(4) Well-beingフォーラム

令和5年度に完全実施を計画している高校生国際会議のプレイベントとして、本事業のテーマである“Well-being”について理解を深め、「“Well-being”な社会の実現」のための方策について探究する「Well-beingフォーラム」を昨年度に引き続き、実施した。

令和4年度は、令和3年度のフォーラムでまとめた「おかやま高校生“Well-being”宣言」をもとにして、「Well-being」な社会の実現のために何ができるか、という具体的なアクションについて考えることをテーマとした。内容は、ユネスコチャェアホルダーである岡山大学上席副学長の横井篤文氏のスタートアップスピーチ、参加校生徒によるポスターセッションに加え、世界196か国から各国を代表する次世代の若手リーダーたちが一堂に会する世界最大級のサミット「One Young World」(OYW)の過去の参加者であり、様々な分野で新たな挑戦や活躍を続けている若手リーダーのOYWアンバサダー5人によるトークセッションとラウンドテーブルを実施した。

5人のOYWアンバサダーは、生徒にとっては年齢も近く、自らの近い将来のロールモデルとも言える存在であり、非常に大きな、良い刺激となった様子であった。生徒の側からは積極的な質問も出されていた。

ラウンドテーブルについても、各グループにアンバサダーがファシリテーターとして加わり、生徒たちに寄り添いながら生徒間の対話をリードしていただいた。また、SHCの生徒とオンラインを通じてディスカッションを行ったグループもあり、生徒の方から画面越しに質問をするなど、アンバサダーのサポートも受けながら、英語で積極的にコ

コミュニケーションをとる姿が見られた。最終年度の高校生国際会議につながる、充実したフォーラムとなった。

○「Well-beingフォーラム」

- 目的 WWLコンソーシアム構築支援事業におけるカリキュラム開発拠点校と事業連携校の課題研究等の取組の成果を相互に交流するとともに、参加生徒が事業のテーマである “Well-being”について理解を深め、「Well-being”な社会の実現」のための方策について探究する。
- 日時 令和5年3月4日（土）10：00～16：00
- 会場 岡山県立図書館 多目的ホール、デジタル情報シアター
- 参加校 岡山操山高校、岡山一宮高校、岡山城東高校、岡山工業高校、倉敷天城高校、倉敷中央高校、玉島高校、津山高校、和気閑谷高校、岡山大安寺中等教育学校 Sacred Heart College高校（オーストラリア）
- 日程 10：00～10：10 開会行事
10：10～11：00 スタートアップスピーチ
「いま、世界はYouthの力を必要としている～Beyond global, Citizenship of the planet～」
岡山大学上席副学長 教授 横井 篤文 先生
11：15～12：30 ポスターセッション
13：30～14：20 OYWアンバサダーによるトークセッション
「わたしの『夢』から「Well-beingな社会」へ」
World Road Inc. 代表取締役 市川 太一 氏
独立行政法人国際協力機構（JICA） 松本 颯太 氏
King’ s College London修士課程修了 片山 晴菜 氏
大阪大学4年 津田 通隆 氏
岡山大学4年 浅野ひかる 氏
14：30～15：30 参加生徒によるラウンドテーブル
「わたしの夢×Well-being=わたしたちの未来へ」
15：30～15：50 全体協議
15：50～16：00 閉会行事

[生徒の感想から抜粋]

- ・アンバサダーの方のお話を聞いて、それぞれされている取り組みの系統は違っても、最終的にはWell-beingな社会のために何ができるか、どうすれば良かに繋がっていて、どの視点からでも「Well-beingな社会のために」ということに繋げることができるのだと感じました。
- ・自分の学校のクラス内で「自分が思うWell-beingとは」の問いに対して、誰一人として全く同じ考えの人はいなかったように、同じグループの高校生も自分が思うWell-beingは人それぞれで聞いていて面白かった。「自分は社会がこうであってほしい」で終わるのではなく、「こういう社会になってほしいから自分はこういう取り組みをしていきたい」まで考えることができ、Well-beingな社会を実現するための第1歩となったかなと思う。



(5) 教員研修会（学力向上プロジェクト合同分析会）

例年実施している、「学力向上プロジェクト合同分析会」において、探究的な学び（PBL）、教科横断的な学び（STEAM）について、岡山大学の稲田佳彦教授による講演を実施した。全県立高等学校から、学力向上の中核を担う教員各1名の参加とともに、会の様子を県内高校へオンライン配信を行い、全校の教員研修の機会となるよう公開した。

○令和4年度学力向上プロジェクト合同分析会

目的 各校や県内の学力状況を分析し、その結果を踏まえて学習指導の在り方について情報交換を行い、指導改善のためのPDCAサイクルの構築及び学習指導の充実を図る。

日時 令和4年10月28日（金） 9：30～16：00

会場 岡山県総合教育センター

参加者 県立高等学校・中等教育学校（後期課程）の学力向上の中核を担う教員各校1名

日程 《午前の部》岡山県の学力課題と課題解決に向けた授業改善について

9：30～ 9：45 開会行事

9：45～10：15 説明1：本県の学力課題と現状について（高校教育課）

10：15～11：15 説明2：学びの基礎診断について（ベネッセ担当者）

11：25～12：15 協議1：各校の学力課題と学びの基礎診断を活用した授業改善に向けての取組について

《午後の部》学力向上に向けて～これからの生徒たちの「学び」をどう捉え、授業改善をどのように進めていくか～

13：15～14：55 講演：PBL（探究的な学び）、STEAM（教科横断的な学び）と資質・能力の確実な育成について

15：05～15：50 協議2：「探究的な学び」「教科横断的な学び」を学校全体で組織的に進めて行くための取組の工夫について